

新緑がすがすがしい金石・大野やすらぎの林=いずれも金沢市大野町で



金石・大野やすらぎの林

れることもあるという。

十一年前、朝夕と日課のように歩いた場所がある。金沢市の金石から大野にかけて、日本海と並行するように広がる「金石・大野やすらぎの林」。雑木林に囲まれるように立つ私立大野町保育園に、当時一歳の長男を一年余り通わせて。行き帰りによく散歩をせがまれ、当時育休明けの仕事や家事の時間が気になりつつも付き合った。

久しぶりに行ってみようと思い立ち、林の一角に隣接する大野日吉神社の総代、粟森

朋行さん(仮名)に案内してもらった。右手にご神木の大きいチヨウを見ながら参道の階段を上がり、立派な拝殿に参った後、林へと続く小道を登った。新緑が鮮やかで、木立を抜ける風が心地よい。クロマツやエノキが枝を広げ、ニセアカシアが白い花をこぼれるように咲かせている。風や砂を防ぐための保安林十五鈴を市が整備し、二〇〇〇年に完成した。愛犬の散歩のため毎日訪れる粟森さんによると、タヌキやキツネがひょっこり現

遊歩道から海がよく見えたと記憶していたが、背が伸びた樹木に遮られて見えにくい。さらに金沢港のしゅんせつ工事で出た土砂で海岸が埋め立てられ、海が随分狭くなっていた。

「夕日の広場」に差しかけた時、海側に視界が開けた。まっすぐな一本道の先に紺碧の海が見えた。「うみ」「うみだね」「おふね」「おふねだね」。小さな手を握り、そんな会話を何度繰り返したことがあるか。この先もこの風景と



子どもの好奇心育む

ともに思い出しては、心の片隅を温めてくれるのだろう。

林は保育園で「トトロの森」と呼ばれ、格好の遊び場だった。立ち寄ると、当時担任だった保育士の高野聡子さん(仮名)が「今もフル活用ですよ」と変わらない笑顔。少しくらい雨や風が強くても散歩に出掛け、その時々、初めて

「この町に生まれてよかった」と、しみじみつぶやく粟森さん。心の洗濯に、またいつか来よう。(小室亜希子)



「この町に生まれてよかった」と、しみじみつぶやく粟森さん。心の洗濯に、またいつか来よう。(小室亜希子)



一本道の先に海が見える



私的ほくりく百景